岐阜大学国際交流室

NEWSLETTER

No. 19
1994年5月18日

● 目 次
岐阜大学における国際交流 －この三年を顧みて－ ………………………菅 原 光 穂 1
留学生交流の状況と方策  ………………………………………………安 藤 幸 雄 2
［特集］留学生と国際交流室
架け橋作ります………………………………………………………大 崎 松 美 3
日本語ってどんな言葉ですか －日本語クラスから－ ………………加 藤 由紀子 5
はじめまして …………………………………………………………六 郷 明 美 7
国際交流のための奨学寄付金について………………………………… 7
お知らせ・平成6年度岐阜大学国際交流室員名簿・編集後記 …………………… 8

岐阜大学の国際交流に長期にわたり様々な側面から携わり、その発展に尽力された菅原光穂教授（教養部英語、平成3～5年度国際交流委員会委員長）と安藤幸雄前学生部学生課長が、この三月に退官されました。

岐阜大学における国際交流 －この三年を顧みて－

前国際交流委員会委員長 菅 原 光 穂

創成期の頃はどうであったかわからない。人はそれを「家内工業的」という。国際交流に大変熱心な人たち数人によって事がどんな進み、他の人々の従従を許さなかった状態もあった。しかし、初期はそうさせざるを得なかったと思われる。私が世話になったこの三年間は、形（組織）こそ創成期のそれであったが、取り扱う内容は大きく、しかも細部にまで配慮を必要とする複雑な仕事の連続であった。

その複雑なもの一つ。国際交流委員会は学長の委嘱を受けてその仕事をやることになっているが、実際にはその「委嘱」というものがはっきりしない。そのため委員会と学長（及び評議会）との間が密にならな

－1－
か当時の局長から思いもかけない反応と対応をとられてしまい大変困った事になってしまった。委員長として勇敢に反論したり、積極的に対応したりすべきであっ
たが、波風を立てずの方針をくずさずにゆっくりと事を選んでいた。しかし評価は何故であろうか。研究者交流はソウル産業大学が今一番活発である。
さらには目立たぬ配慮を必要としたりの
のは奨学寄附金のお願いであった。景気の後退期をいうこともあって会社の職員
の方々は、私の額を見るのにうら然し
い顔はなされなかった。しかし、こ
ちら側にも問題はある。仲間を常々先生として、戴
いた奨学寄附金が、何時何処でどのように使用され役
に立っているかを一日明かとしたパンフレットの作成
など急務であった皆である。これなども急務と組織の
不備から不敬を戒めない。寄附学寄附金のお願いの
中にも嬉しい気持ちの良いものもあった。昨年秋大阪市
工業を訪れたとき。予想に反して暖かい言葉と多額の
寄附金を頂戴した。」「企業に左右されるのは社内の経
営であって、留学生の勉学生活ではない。今迄通り寄
附させても頂きます。」の言葉と共に100万円いただい
った。お見舞の一言につき
る。
仕事の量で参ってしまったのは、圧倒的な手紙類、連
絡事項の処理である。すべて英文なので差し濃い
中には大変なものもある。ソウル産業大学の留学生が最初
にやって来た時、単位や成績で学年の中間は異
なるために生じた問題の打解を計るやりとりなどがそ
の最たるものであった。
幸いうまく事が運ばれが、我ながら英文の修業を
させられたと思う。生きた英作文練習であった。この
留学生が日本の大学生活を送る場合、同時に受け入れ大学や地域社会等において様々な社会的かわかりを持つことは、施策が効果をもって上で最も重要な要素である。

大学で現在困っているのは、留学生の国の確保です。良質な住まいが確保されることを含めた留学生活を送る上の基礎となるものです。宿泊対策としては、ご宿泊住宅等への入居促進、企業の社宅、学習者の入居及び留学生宿舎への入居等があります。公営住宅及び企業の社宅への入居等については、岐阜地域留学生交流推進協議会を通じて事業を展開しています。これらは、大学を含む地域全体としても留学生の受け入れを自らの課題として、積極的な幅広い支援活動を展開することが期待されています。

私は、平成4年にアメリカの大inceton大学に派遣する機会を得ました。本学では、毎年協定大学へ学生が派遣され、外国での英語研修をはじめる、留学生活を体験してきました。この年はノーザンクッキー大学へは24人の学生が短期留学し、一緒に住み、管理国際交流委員会委員長、国際交流室長そして私の4人、総勢38人で成田から出発しました。目的地に着くと空港では、ノーザンクッキー大学のバスを仕立ててお出迎えでした。現地での状況等の詳しいことはNewsletter 16号で掲載済みですが、事務局として国際交流を担当しているひとりとして、外国との交流をもって上手に先ず来て、見て、人に会って話し合ってよかったというのが実感であります。

本学では、大学における留学生に関する今後の方策として、行政、ボランティア団体、本学等の相互の連携と、地域住民の方々たちに、学生交流、あるいは国際的な視野を広げるという意味での理解促進のための取組が必要になってきているのだと思います。

【特集】留学生と国際交流室

本年度も岐阜大学は世界の国々から新しい留学生、研究生を迎え、国際交流室の一年も始まりました。在籍する留学生が二三名に達しようとしている今、国際交流室は留学生にとってどのような存在であり、また今後はどうあるべきなのでしょうか。

交流室事務と日本語教育という留学生サポートの現場から、その活動を報告いたします。

架け橋作ります

学生部留学生国際交流事務室国際交流係 大 崎 松 美

海外から一歩進歩に努力をし、学ぶことに来ている留学生を精神的な面だけでなく物理的にもサポートしてあげ、しっかりと何かの課題で留学先として来た日本だから、勉学の面だけでなく精神的にも生活的には十分を表現し、互いに影響しあいながら過ごして帰って欲しい。そしてその留学生達は将来それぞれの国で活躍し、少しずつではあってもその国がどのような影響で進歩し、発展し、ひいては世界中が互いに良い方向へ向かって行くのには本当に素晴らしい事だとを考えます。

今の時点で私が感じている岐阜大学の国際交流に関する最低限の希望を述べたいと思います。

1）留学生を孤立化させたくない

2）そのために、沢山の架け橋／きっかけを作ってあげる（留学生と日本人学生、留学生と地域市民、留学生と留学生、等）

3）そして大学にとって、地域にとって、留学生にとっても互いにプラスになる環境

「国際交流室の活動・行事」はまさにこの（2）の架け橋にあたるべき大切な部分だと思うのです。

現在、国際交流室が行っている主な活動は、4月の国際交流室オリエンテーションに始まり、外国語（英語、中国語、ポルトガル語）・日本語教育、国際理解の在り、ニュースレターの発行、夏期短期留学等
で、3月の帰国留学生の為のフェアウェルパーティー及びホームステイファミリーとの懇談会で締めくくるます。

国際交流の行事、その他を通じて常に思う事は、イベント化された国際交流や行事はやりたくないという事です。留学生がどのような事をどこまで求めるか等を十分把握し、それをもとに討論を重ね、形作りをし、前記（2）にあたるどういう架け橋が必要なのかを検討した上で架け橋を作ってあげる。その国の観光紹介にとどまらない一歩踏み込んだ懇談会等へとつながり、そのうち留学生からの自発的活動（一方的ではない）等へと導いてゆけば、(3)の「大学、地域社会、留学生にとって互いにプラスとなる還元」へとつながってゆくのではないかと考えます。

留学生に自由な空気の中で、もっとのびのび、活き活きとしていて欲しい。日本人学生も、積極的に留学生と意見を交わしあって欲しい。そんな姿、カフェテリアで共に話しながら食事をしている姿、誰とでも挨拶を交わしている姿。こういう光景を夢みつつ、私自身留学生に対しても常にフレキシブルで限りなくフェアな態度を忘れずに、内容のある是の架け橋を作って行きたいと思っています。
日本の語ってどんな言葉ですか？ - 日本語クラスから -

国際交流室日本語講師 加藤由紀子

毎学期、日本語クラスの時間割表がニューズレターに載るのですが、その内容がはっきりしないと思われる方も多いと思いますので、少し説明をさせていただきます。

A Ⅰ……4月から始まる日本語の知識がまるでないか、ほとんどない学生のための初級コースのことで、週3クラスあります。テストは『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』を使い、前期末までに『Ⅱ』の初めの数課まで進みます。

B Ⅱ……前期年度10月から始まった初級コースの続きで、週7クラスあります。テストは『文化初級日本語Ⅰ』を使い、前期末の続き（初めから数課進んだところ）からテストの続きです。このコースには前期末からの入学者でも、初級の中レベルの日本語能力がないと受講されれば入れることができます。

A Ⅲ……4月から始まる中級コースのことで、週2クラスあります。学内あるいは学外で初級を終了したと認められる学生のためのコースです。テストは『中級から学ぶ日本語』を使います。

以上の3コースは連動しており、4月に始まるコースをA、10月に始まるコースをBとしていますが、どちらからスタートしてもⅠ→Ⅱ→Ⅲと進んでいくようになっています。これらは柳戸キャンパスで行われております。ただし表を見てお分かりのようにⅠ・Ⅱコースはほとんど毎日授業があります。これほど日本語の学習に時間が割けない学生のために、CⅠとCⅡがあります。

CⅠ……日本語の知識がまるでないか、ほとんどない学生のための初級コースで、週2クラスあります。テストは『しんにほんごのにしださくⅠ』を使い、テスト前半を終了します。

CⅡ……週1に続く初級コースで、週2クラスあります。テストは『しんにほんごのにしださくⅠ』を使い、テスト後半を終了します。

ここまでは柳戸キャンパスのコースですが、他に時間的、距離的な理由でこれらのコースに出られない医学部の学生のためのコースが作られています。それがDⅠとDⅡです。

DⅠ……CⅠとほぼ同じ
DⅡ……DⅠとほぼ同じ

ただし、CⅠ・CⅡ・DⅠ・DⅡはその時の学生の状況により、進度やレベルを多少変更することもあり、上記の学習範囲と異なることもあります。

以上が各コースの概要です。コース終了後に成績が出されますが、その成績はスタッフミーティングで出席、学習態度と提出物、及び試験によって決めます。またⅡ・Ⅲのコースの終わりにはスピーチテストもあり、それも評価されます。ただし、出席が3分の2に満たない学生の成績は出せないことになっています。

そこで私達がなぜ出席にこだわるかと言うと、言語を習得するのに一番大切なことは、継続的学習であ
ニュースレター No.19

すると考えるとです。また、出た出に大きったりするとき、すぐに分からなくてもって本人が日本語の学習に興味を失ってしまうということにもなり、いっては他の学生の迷惑にもなり、進度も大幅に変更せざるを得なくなるからです。ということでおっ、コースに出ることに決めた学生にはぜひ続けてクラスで出てほしいものだと思います。いろいろ書いてきましたが、この不明の点がございましたら、私共にお尋ねください。

ところで皆様は日本語教育とどんなものだと思いたらでしょうか？今日は日本語教育で扱っている事柄をいくつか挙げてみたいと思います。どんな初級のテキストを開いても、初めて教えるの言葉が出てきます。朝は「おはようございます」、昼は「こんにちは」、夜は「こんばんは」、夜遅れは「おやすみなさい」と教えとします。これは正しいのです。この4つの言葉が同等ではありません。「おはようございます」と「おやすみなさい」は家族の中の人とも外の人にも使いますが、「こんにちは」「こんばんは」は家族には使えません。数詞を教える時に、「コーヒーのラーメンなどは1杯2杯と数えます。」と言ったとします。「今朝コーヒーを3杯飲みました。」はいいですが、喫茶店で3人で行って3人ともコーヒーを注文したい時に、「コーヒー3杯お願いします。」と言うでしょう。

レストランや喫茶店での注文には「ひとつ、ふたつ……」を使うのが普通ではありません。条件節を教えとします。「食事をしたたら食事をしない」という文はいいのに、「食事をしとるなら食事をしない」とはあって正しくないのです。でも「食事をすると食事をしない」はいいんですね。どうしてですか。「はい」は「YES」、「いいえ」は「NO」と思うのです。だれかが何かを人に渡すときに言う「はい、どうぞ」の「はい」は何ですか。さえ、何ですか。答えの知りたい方は、日本語のクラスにおいでください。こういった質問を毎日いつも受けているのが外国人に対する日本語教育の現場です。私達はこんな風に外から日本語を学ぶお客さんを前にして、約10年間日本語教育にかかわってきました。この間、毎週1度の勉強会を続けてきましたが、趣味は尽きませんし、まだ分からないこともたくさんあります、と言うよりももっと分からないことが多いでした。留学生の質問と彼らの作る誤用文は私達の研究のための宝の山です。

さて、この記事で日本語教育に対するイメージが少しはわきましたでしょうか。そして、もう『日本語っておもしろいな』と少しも思っていただければ嬉しいです。
「はじめまして」

昨年度後半期より、国際交流室日本語クラスのスタッフは、新しいメンバーを迎えました。
昨年10月から今年2月迄、医学部のクラスとCのクラスの計2時間の日本語の授業を受け持ちました。以前、ボランティアとして認定学生に接した事はありませんでしたが、決める被で教えるのは初めての事でした。懸案症候中に事で思っていた事は、日本語を教える事の大切さです。何不自由なく日本語を教えるながら、いかによく日本語について知らなかったかという事でした。ただ楽しいで過ぎたボランティア時代を思い出すと、穴があったら入ります。でも反面 trophies あるのです。今年はオープンのクラスにも参加することになりました。
先輩の方々に教わりながら、又挑戦もかけながら、少しでも前に進めるよう協力したいと思います。そして前期の終わりには、先生と呼ばれてもソラソラと居心地の悪い思いをしなくてもふむようになっていきたいものです。

六郷 明美

国際交流のための奨学寄付金について

近年、大学における国際交流の必要性が高まってきており、本学でも年々留学生が増え平成6年4月現在で27カ国1地域194名が在校し、茉学にまた研究に適しております。
また国際的に開かれた大学として国際交流の強化や国際的視野を持つ人材の育成等を目的として5カ国（アメリカ合衆国、ブラジル、中国、スウェーデン及び韩国）11大学（サンディエゴ・ステート大学、ノースカレッジ、カリフォルニア大学、広葉薬学院、電子科技大学、無錫軽工業学院、浙江医科大学、中国医科大学、ルンド大学、ソウル産業大学）との間で学術交流協定を締結しております。
このような国際交流活動を推進するために昭和50年に国際交流室を設置し、留学生に日本語や日本事情等の教育を実施してまいりました。こうした教育や交流活動の一部を企業等による奨学寄付金で運営しております。
平成5年度は次の企業等から寄附金を賜りましたので、ここに厚くお礼を申し上げるとともに、掲載させていただきました。
（株）大垣共立銀行、（株）十六銀行、（株）岐阜瓦斯、
（株）大日本土木、財団法人田中福寿会、
（株）太平洋工業、（株）イビダン、（株）岐阜車体、
（株）中村電力岐阜支店、医療法人東山会長尾川病院、
（株）杉山鉄工所、（株）日本耐酸塗工業、
国際ソプロチンミスト岐阜、（株）岐阜信用金庫
（順不同）

平成5年度第2回国際理解の歌いにれて
サイド・アリ・アザールムサさん（工学研究科）
による「イランについて」

—7—
○お知らせ
国際交流室では、本年度も教職員、学生向けの外国語クラス（英語、中国語、ポルトガル語）を開講する予定です。詳細は、国際交流室前ほか、学内に掲示しますので御覧下さい。

平成5年度 岐阜大学 国際交流室 員名簿

<table>
<thead>
<tr>
<th>所属</th>
<th>氏名</th>
<th>職名</th>
<th>考</th>
<th>所属</th>
<th>氏名</th>
<th>職名</th>
<th>考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>農学部</td>
<td>塩内 孝次</td>
<td>国際交流室長</td>
<td></td>
<td>工学部</td>
<td>松浦 幹次</td>
<td>イクスカッション担当</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>教育学部</td>
<td>佐藤 昌宏</td>
<td>ホームステイ担当主任</td>
<td></td>
<td>農学部</td>
<td>金丸 康瞭</td>
<td>国際理解教育担当主任</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>教育学部</td>
<td>佐原 秀一</td>
<td>日本事情担当</td>
<td></td>
<td>農学部</td>
<td>前澤 長路</td>
<td>会計担当</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>医学部</td>
<td>奥野 正隆</td>
<td>医学部関係主任</td>
<td></td>
<td>教養部</td>
<td>永井 敦子</td>
<td>広報担当主任</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>医学部</td>
<td>加藤 真樹</td>
<td>医学部関係</td>
<td></td>
<td>教養部</td>
<td>三浦 陽一</td>
<td>日本語担当</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>工学部</td>
<td>坂本 秀生</td>
<td>学生担当主任</td>
<td></td>
<td>医療技術</td>
<td>湯川 崇子</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

●統率後記
昼休みの図書館でエルンストの画集を探していたら、横に立っていた人も偶然同じ画集を手に取ろうとしていて……といった出会いは増えますが、ドラマでもない限り、町やキャンパスで遭遇する人との友達になるのは難しいようですね。食堂で向かいに座っている留学生に勉強のことや国での生活のことを話しあってみたいと思っても、迷惑でないだろうかと考えて話しかけずにいる人も多いのではないかでしょうか。

もしも留学生たちと話し合う機会があれば、次回キャンパスで出会った時、挨拶したり近況を報告してはとでも、国際交流室が定期的に開いている国際理解の集いにも、まずお互いに知り合い、そこから自然にコミュニケーションが流れてゆけば、という願いがあります。

研究室やサークルでの活動に限らず、大学内でそうした小さなきっかけを作り出されている方々がありましたら、ぜひ交流室までお知らせください。NEWSLETTERで紹介させていただきたいと思っています。

今号から題字を変えました。作成を手伝ってくださった教養部内藤先生に感謝いたします。（永井）